

## 尿中有形成分分析装置 UF-5000 における尿中異型細胞検出能の検討

©武井謙<sup>1)</sup>、藤原 悠基<sup>2)</sup>、鶴田 誠司<sup>1)</sup>、中澤 寛人<sup>1)</sup>、松島 秀子<sup>1)</sup>  
伊勢崎市民病院<sup>1)</sup>、群馬大学大学院医学系研究科応用生理学<sup>2)</sup>

【はじめに】尿中有形成分分析装置 UF-5000 (Sysmex 社) は、尿中の赤血球や白血球、細菌を非遠心尿を用いてフローサイトメトリー法で分析する装置である。本装置では原理的に細胞内の核酸量を測定できるので、研究項目ではあるが「Atyp.C」という尿中の異型細胞や細胞質内封入体細胞の検出を狙った項目がある。今回、それら細胞について尿沈渣鏡検結果と比較検討を行ったので報告する。

【対象及び方法】2020年10月から2021年9月までに当院を受診し尿沈渣にて異型細胞を認めた検体、もしくは尿細胞診の依頼があった264検体(異型細胞陽性:135検体、尿細胞診:136検体)を対象とした。これらの検体についてGP1-P4(JCCLS)に則り鏡検を行い、残余検体をUF-5000で測定した。Atyp.Cの測定値と鏡検による異型細胞及び細胞質内封入体細胞について統計解析を行った。

【結果】Atyp.Cのカットオフ値を $0.5/\mu\text{L}$ と設定した場合のUF-5000と異型細胞の一致率は78%であり、カットオフ値を $0.1/\mu\text{L}$ と設定した場合の一致率は73%であった。Atyp.C ( $1/\mu\text{L}$ )の値は異型細胞数( $1/\text{WF}$ )、細胞質内封入体

細胞数( $1/\text{WF}$ )についてともに正の相関( $p<0.001$ )を示し、相関係数はそれぞれ0.353、0.462であった。また、異型細胞の有無と細胞質内封入体細胞の有無についての統計解析の結果、2つの細胞の出現には強い関連性が認められた。

【考察】結果からAtyp.Cは異型細胞、細胞質内封入体細胞の両方に正の相関を認めた。相関の強さは細胞質内封入体細胞>異型細胞ではあるが、異型細胞の有無と細胞質内封入体細胞の有無は関連性が強いことから、異型細胞の出現が少量の場合でもAtyp.Cによって検出できる可能性がある。したがって、異型細胞のみではなく異型細胞に関連性の強い細胞質内封入体細胞を検出することができるAtyp.Cは異型細胞を目的とした尿沈渣鏡検前のスクリーニング(鏡検時の情報)として有用であると考えられる。

連絡先:0270-25-5022(内線2151)